

海上保安庁における薬物事犯の摘発状況と水際対策について

1 過去5年間の摘発実績

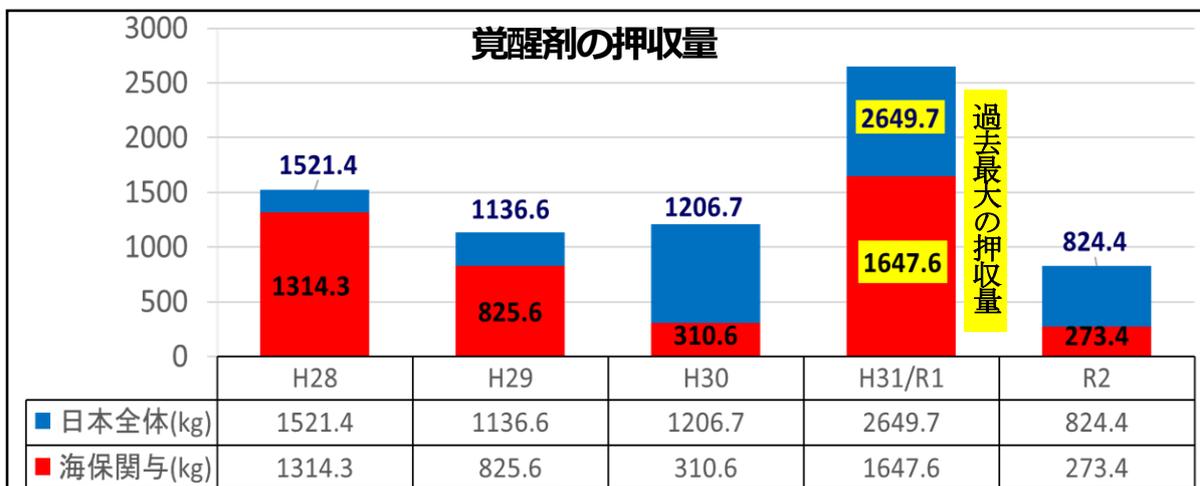
区分		年別				
		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
摘発件数		12	8	15	9	5
押収量	覚醒剤	1,314.39kg	825.61kg	310.63kg	1,647.67kg	237.38kg
	大麻	1.0g	101.9g	23.59g	227.59g	微量
	麻薬	646.39g	71.31kg	115.21kg	577.65kg	781.77kg
	あへん	7.95g	0	0	0	0
	指定薬物	0	0	0	0	0

注：表の数値は、当庁単独又は他機関と合同で摘発したもの。

2 過去5年間の主な摘発事例

海上からの密輸事犯は、海上コンテナ貨物への隠匿といった手法に加え、小型船舶を利用した瀬取りにより、一度に大量の薬物等を密輸する事犯が発生しており、海上保安庁では関係機関と連携し、これら密輸事犯を摘発しています。

また、近年においては、海上コンテナ貨物への隠匿による密輸事件はもとより、国内における違法薬物の所持・使用事犯の増加が懸念されていることに着目し、これら潜在事犯の摘発に向け、捜査体制を強化しています。



注：日本全体の数値は、警察庁、財務省、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べの統計値参照。

【令和元年6月 静岡県賀茂郡南伊豆町】(過去最大の押収量)

- 鳥島南西方沖の日本の排他的経済水域内において
国籍不詳の船舶から瀬取り
- 中国人7名を逮捕
- 覚醒剤約 1,018kg** を押収



【被疑船舶と積載されていた覚醒剤】

【令和元年12月 熊本県天草市魚貫町】(過去3番目の押収量)

- 東シナ海公海上において国籍不詳の船舶から瀬取り
- 台湾人ら24名を逮捕
- 覚醒剤約 586kg を押収



【押収した覚醒剤】

【令和元年6月 広島県徳山市】

- 当庁立入検査により、外国船内居室にて大麻を発見
- スリランカ人1名を逮捕
- 乾燥大麻 6.42g を押収



【押収した乾燥大麻】

【令和2年11月 千葉県鴨川市】

- 海上コンテナ貨物内に覚醒剤を隠匿し密輸入
- イスラエル人2名を逮捕
- 覚醒剤約 237 kg を押収



【押収した覚醒剤】

3 水際対策

- 国内外の関係機関との連携を強化
 - ➡合同捜査による取締りに加え、各種会議、研修等において最新の薬物情勢、捜査手法等の共有により、国内外の関係機関との連携強化に努めている。
- 巡視船艇・航空機等を活用した監視・警戒及び広域捜査
 - ➡虞犯情報に基づき、巡視船艇・航空機等を使用した外航船舶等に対する監視のほか、コントロールド・デリバリー捜査等において当庁航空機を投入し、捜査に活用している。
- 薬物仕出地とされる可能性の高い国から来航する船舶に対する重点的な立入検査・監視
 - ➡新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、航空機利用客による違法薬物の密輸件数が減少し、海上貨物による違法薬物の密輸事件の増加が懸念されることから、現状においても、当該船舶等に対する重点的な立入検査等を実施している。